

No.79 A WORD FROM ANOTHER WORLD



April – National Cherry Blossom Festival Jane Kim

It's April, and it is spring now in America, although there might still be snow in Higashikawa. For many Americans, spring also means Spring-cleaning. Now is usually the time to clean your entire house. A more relaxing way Americans celebrate spring is by attending The National Cherry Blossom Festival held in Washington D.C., the capital of the United States. The festival, starting on March 20 and ending on April 15, hosts many events, such as, music concerts, marching bands, parades, fireworks etc.

However, cherry blossom trees were not native to Washington D.C., so where did the trees come from? It turns out that in 1912, Mayor Yukio Ozaki of Tokyo City gifted 3020 cherry trees as a symbol of the close relationship between the United States and Japan. On March 27, 1912, First Lady Helen Taft and Viscountess Chinda, wife of the Japanese ambassador, planted the first two trees in Washington D.C. that are still standing today. In the following years, many have re-enacted the initial planting to celebrate the continued friendship between the United States and Japan.

I did not know that cherry blossom trees had such a rich history, and I will appreciate them for more than just their beautiful white and pink blossoms.

【ちよつと豆知識】 宮地晶子

首都ワシントンD.C.は、人工的に造成した東海岸にある都市。D.C.とはDistrict of Columbia (コロンビア特別地区)の略で、その名は探検者コロンブスに由来します。一方、西海岸にあるワシントン州の名は、初代大統領、ジョージ・ワシントンに由来。アメリカの42番目の州となりました。イチローの活躍で有名になったメジャーリーグベースボール (MLB) のアメリカンリーグ西地区プロ野球チーム、シアトル・マリナーズの本拠地で、IT企業のマイクロソフト社、コーヒーショップチェーンのスターバックス発祥の地でもあります。

4月—全米桜祭り ジェーン・キム

4月ですね。東川にはまだ雪があるかもしれませんが、アメリカはもう春。アメリカ人の多くにとっては、スプリング・クリーニングといって大抵家の大掃除をする季節です。のんびり派の人達は、首都ワシントンD.C.の全米桜祭りに出かけます。3月20日に始まって、4月15日に終わるこの祭りでは、コンサートやマーチング・バンド、パレードに花火といったたくさんのイベントが開催されます。

でも桜はもともとワシントンDCに自生していたわけではありません。ではどこから来たのか。それは1912年、東京

都の市長、尾崎行雄が日米友好の証として3,020本の桜の木を贈ったのが始まりだそう。この年の3月27日、アメリカのファースト・レディ、ヘレン・タフトと日本大使、珍田子爵夫人が初めて2本の桜を植えました。これは今もその地に根付いています。その後も日米のさらなる友情を祝して、植樹が行われてきました。

桜にこんな豊かな歴史があるとは知りませんでした。これからは単なるピンクや白のきれいな花という以上に、桜の花を堪能するつもりです。

(訳: 宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第149回

あわただしい季節ですが...

今年1月の新聞に「道教大函館校、対象4年生の3割TOEIC得点足りず卒業危機」という記事が載っていました。

TOEICとは国際コミュニケーション英語能力テストのこと。国際地域学科の目標点は、国際協働グループで640点、その他は480点だそうです。その目標点がまぎれ衝撃でした。実用英語検定の2級は500点程度、準1級が730点程度と考えると、国立大学に入学できた学生が達成するのに難しいとは到底思えません。ただ正しい訓練をする時間がなかったのでしょうか。

この原稿がお手元に届くころは、3月で卒業した中学生が高校の入学式を終えているころ。今年は英語が得意という3年生が多く、「高校へ行って、もっと英語をできるようにになりたい」という生徒が多かった学年です。うれしい将来が楽しみ。

でも英語は気持ちだけで出来るようになりません。中学卒業時に英語検定(英検)3級レベルだったという想定を前提とすると、2級レベルになるには、さらに2,000時間程度の学習が必要といわれます。2級までは勢いで受かることもありますが、低いレベルで合格すると、結局その上、つまりTOEIC640点、あるいは英検準1級を目指す時に垂直の絶壁を登るような思いで挫折しかねません。

新入生にとっては嵐のように慌ただしい4月。気がついたらもう8月—なんてことはよくあること。喜びで迎えた新しい季節、今からこんなことを言うのも忍びないのですが、本当に英語を出来るようになりたいのなら、立ち止まってははいけません。真新しい教科書を音読しよう。付属のCDを使ってシャドーイングを続けましょう。正しいトレーニングをすれば結果はついてくる。それは私が保証するからね!